

## [研究ノート]

北陸学院大学幼児児童教育学科小学校教員養成課程に関する一考察  
—2011年度卒業生からのフィードバックによる—An Inquiry into the Elementary School Teacher Training Program in the  
Department of Childhood Education, Hokuriku Gakuin University  
—Through Feedback from Graduates in 2012—

金丸 洋子\*

## 要旨

小学校教諭一種免許状を取得しながら、小学校教員を目指さない卒業生の割合が多いことに問題意識をもち調査を試みた。強い意志や自分の適性・資質能力を判断し卒業後の進路を選択したこと、それぞれの仕事への喜びや課題をもち頑張っている様子などが分かった。小学校教員としての適性を判断したり、実践指導力などの基礎的な力を身に付けるために、小学校プレ実習が「理論と学校現場体験の往還を重視した教職養成課程」となることが課題である。

キーワード：小学校プレ実習／適性と資質能力／実践指導力

## はじめに

2008年に北陸学院大学人間総合学部幼児児童教育学科が開学し、2012年春年度卒業生（1期生）を社会に送り出した。本学は60余年にわたって保育・幼児教育のプロフェッショナルを多数養成し輩出してきているが、大学としては小学校一種免許状を取得した卒業生を社会へ送り出したのは初めてである。幼児児童教育学科1期生77名中、小学校一種免許状を取得した学生は21名である。その中で小学校教員を志した学生は8名（38%）である。

2012.8.28の中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」では、取り組むべき課題として「学校現場における諸課題の高度化・複雑化により、初任段階の教員が困難を抱えており、養成段階における実践的指導力育成の強化が必要」を挙げている。また、教職養成課程の課題として、「学校現場での体験

機会の充実によるカリキュラムの改善、いじめ等の生徒指導に係る実践力の向上 課程認定の厳格化等質保証の改革」を学部レベルに求めている。この機をとらえ、それぞれの仕事に就き半年を経た小学校一種免許状を取得した1期生21名に、免許状や資格取得、現場体験ボランティア、現在の仕事での喜びや悩み等についてアンケート調査を試み、本学の教職養成課程や指導に活かすことを本稿の目的とする。

本稿は、本学の免許取得を目指す要件の概要や免許取得状況に触れ、アンケート調査内容の結果及び考察を示し、本学の教員養成課程の指導の在り方についての課題を提示する。

## I. 本学の免許状・資格取得を目指す要件の概要及び取得状況

## 1 2008年度入学生の実習資格要件

2008年度本学では、保育士・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の3つが取得できる養成課程カリキュラムが編成されている。

免許状・資格取得のために、幼・保・小の本実習にいくための本学の共通必須事項は4項目ある。

①指定された科目を履修して単位を修得していること、②授業態度、生活態度に問題がないこと、③資格ごとに定められたプレ実習<注1>を行っていること、④資格ごとに定められた基礎学力を保障するための検定資格級<注2>に達していることである。

\* 大学で行う「短期集中対策講座」を受講し合格基準点の取得で代替えができる。

## 2 2008年度入学生の資格取得・学修状況及び進路

入学時当初には<表1>に示すように小学校教諭一種免許状の取得を31名（40%）が希望しているが、初心を貫徹し取得できた学生数は21名（27%）である。小学校教育実習にいくことができ

なかった10名の一因としては、対象となる資格検定必須条件が取得期限までに合格しなかったことや実習必修科目を履修して単位を修得していなかったことがあげられる。また、小学校教育実習は4年次6月又は9月に実施される。幼稚園教諭や保育士資格の取得見込みが確実にあった時点で放棄したり、大学での学修を積み重ねていく中で、自分の能力や適性に向いていないと進路を見直した学生もみられる。

## 3 小学校教諭一種免許取得学生の取得免許・学修状況及び進路

小学校教諭一種免許取得学生21名の進路先、進路先別修得単位、GPAの値を比較してみると<表2>のような結果になった。小学校教諭一種

&lt;表1&gt; 2008年度入学生の免許状・資格取得比較（幼・保・小に限定）

種類	入学時の資格取得希望		卒業時の資格取得状況		増減（人）
	人数（人）	構成比	人数（人）	構成比	
小学校教諭一種免許状	4	5%	3	4%	-1
小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状	10	13%	8	10%	-2
小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 保育士	17	22%	10	13%	-7
幼稚園教諭一種免許状	4	5%	7	9%	+3
幼稚園教諭一種免許状 保育士	34	45%	37	49%	+3
保育士	1	1%	4	5%	+3
その他	7	9%	8	10%	+1
合計	77	100%	77	100%	

&lt;表2&gt; 進路先別人数・GPA平均・卒業時修得単位数平均比較

進路先	人数（人）	修得単位数平均	GPA平均
小学校教員関係	7	145	3.2
幼稚園教員関係	5	157	3.1
保育園教員関係	6	158	3.2
その他	2	138	2.9

\* KANAMARU, Youko  
北陸学院大学 人間総合学部 幼児児童教育学科  
家庭科・国語科

免許状取得学生21名の進路は、小学校関係に就職した人数が7名、幼稚園関係5名、保育所関係6名、その他3名である。教員採用試験を受験した学生は21名中8名(約38%)である。

"量"の学修成果である4年間の修得単位数の進路先別平均は、小学校関係145単位、幼稚園関係157単位、保育所関係158単位、その他138単位である。小学校関係やその他に進んだ学生は、小学校教諭免許か、小・幼教諭免許に絞り込んだ学生が多く、幼稚園や保育所関係に進んだ学生は、小・幼・保の免許・資格を取得しているケースが多い。最多取得単位数は166単位、最少修得単位数は126単位である。石川県教員採用試験に現役合格した学生の修得単位数は128単位である。

成績評価にもとづく学習の"質"を総合的に評価できるGPA(Grade Point Average)の進路先別平均は、小学校関係3.2 幼稚園関係3.1 保育所関係3.2 その他2.9とほぼ横並びである。

## II. 調査について

"量"の学修成果と"質"の成績評価ともに優れ、本学の実習共通必須事項の4項目を充足し、小学校一種免許状を取得した21名の努力は図りしれない。しかし、教員採用試験にチャレンジした学生は8名、38%である。「なぜだろう?」と疑問になり調査を試みた。

### 1 対象者と調査方法

本学卒業生(1期生)で小学校教諭一種免許状取得者21名にアンケート調査を行った。

アンケート実施方法 郵送

アンケート実施期間 2012年8月31日~9月18日

### 2 質問事項

\* 共通質問事項

(1) 小学校教諭一種免許を取得しようと思った理由また取得できた理由(記述式)

(2) 仕事をしている上での喜びや悩みについて(記述式)

(3) 大学時代にもっと学んでおいたらよかったと思うこと(記述式)

(4) 取り組んだ小学校プレ実習の種類や期間・回数等(選択式)

(5) プレ実習の取り組みに対する自己評価(選択

式)

(6) プレ実習で学んだこと(複数選択式 記述式)

(7) その他(自由記述式)

\* 特定個人(幼稚園教諭を経験し初任小学校教諭)に対する質問

(8) 幼稚園教諭としての喜びや悩み 小学校教諭としての喜びや悩み(記述式)

(9) 再度、幼稚園に携わりたいという希望の理由(記述式)

### 3 調査結果について

基本データは以下の通りである。

アンケート配布数: 21

回収数: 15

アンケートに記述された文面のまま掲載

聞き取り調査数: 2

\* 共通質問事項

(1) 小学校教諭一種免許を取得しようと思った理由と取得できた理由について(記述式)

**A 幼保小3つの免許資格取得者の取得しようと思った理由**

① 迷いがあり進路を1つに絞ることは難しかったため

② 1つ取っても3つ取っても学費は変わらないので、大学に進学させてもらった分、取れるだけ取りたかったから

③ 小免幼免の取得過程の学びは保育士になるうえで非常にためになると、短大時代の先輩にすすめられたから

④ 取得できるものは全て取得したかったから

⑤ 就職の時に視野を広くもてるように

⑥ 4年間を充実させたかったから。小学校も視野に入っていたから

⑦ 取得できるものは全て取りたいと思った。将来の就職の幅が広がると思ったから

**B 幼保小3つの免許資格取得者の取得できた理由**

① 幼保小をとるのは正直かなり辛かった。第1希望の小学校が4年生での実習だったので持ちこたえたが、保育が先だったらあきらめていたかも

② 周りからの支えとバカにされたくないという意地から

③ どうしても取得したいという強い意志や共に頑張る仲間が存在

④ 一緒に頑張れる友達がいたことと実習先での子どもたちの楽しそうな笑顔やいきいきした表情、先生方からの励ましの言葉や刺激があったから

⑤ 入学した時から3つの資格をとりたいたいという強い気持ちがあり、大学を選んだから。同じ3つの資格を目指す友達が周りにたくさんいたため辛くても乗り越えられた。

⑥ 先生方の協力、親身になって相談、アドバイスをいただいた。実習や授業で必要なことはしっかりとこなし単位を落とさなかったから

**C 小学校の教員を目指さなかった理由**

① 「自分が幼かった頃に大好きだった保育所の先生のようにになりたい!」という想いが強かったからです。でも、プレ実習や小学校実習を経験し、以前はそれ程関心がなかった小学校教員のやりがいや大変さが分かって、ちょっといいかも…と感じたことはありません。

② 教員採用試験にうからないと思い諦めました。

③ 自分の役目は小学校教諭でないと感じたからです。

④ 小学校と幼稚園とでとても悩みましたが、自分が働きたいと思っていた園から声がかかったので、親や先生と相談して幼稚園教諭になることを決めました。

⑤ 幼児教育が好きだったから。カリキュラム通りの授業という形ではなく、子どもの様子(興味)に合わせて活動を楽しみたいと感じたから

⑥ 小1~小6までの授業を担当することは難しい。幼稚園教諭になることが幼い頃からの夢だった。

⑦ 幼稚園の先生として頑張ってみたいと思ったから

⑧ 自分には才能がないと思ったから

**D 幼小または小に絞って取得した理由**

① 広く浅くになってしまうくらいなら、本命に絞って集中しようと思ったから。また、実習が負担になると思った。行かなかった分、自分のしたいことに全力投球できた。

② もともと教育関係につきたくて好きだから。教員になりたかったから

③ 幼稚園教諭の時に幼小連携の研究に関わり、小学校の教員を経験してみたいと思ったから

④ 小学校の勉強に集中したいと思い小免だけを取得しました。

⑤ 養護教諭には高校時代から興味はあったのです

が、絞ってしまっていていいのか迷い、まず、教育の勉強をし、子どもに関わりたくて教育学部を志望しました。大学時代に自分が進むべき道について考えるきっかけとなったのは、学生時代の塾でのアルバイトや就職活動でした。

⑥ 幼い頃からの夢であり、子どもに関わる仕事をするんだと決めていたからです。

(2) 仕事をしている上での喜びや悩みについて(記述式) ○喜び △悩み

① ○コミュニケーションをとることが難しい情緒障害をもつ児童との関わりにおいて、自分の思いが伝わった時や生き生きとした姿を見ることができた時 △子どもの気持ちが落ちこんだ時の対応や保護者対応 自分の時間がないことや仕事に追われ心に余裕が無いこと

② ○仕事が楽しすぎる。△もっと様々なことをしたいのですが、非常勤講師のため、やれる範囲に限られることが悩みです。

③ ○毎日、子どもたちと関わり何かをやりとげた時の嬉しそうな顔を見ると、本当にこの仕事の良さを感じます。△その一方で子どもたちの"叱り方"に悩んでいます。

④ ○自閉的な傾向があり入園当初は目も合わさなかった子が、今では甘えてきたり、自分のことは自分でしようと挑戦し、それが達成できた瞬間を見られることが喜びです。また。「家で先生の話をしています。」などと保護者から聞かせていただけた時も嬉しく感じます。悩みは今の所なく職場の人間関係にも恵まれ、毎日充実しています。

⑤ ○子どもと楽しんで遊ぶこと 遊びを通して気付かされる学びがあること △一人ひとりを見ることができていない。言葉ばかりでなく、音楽(ピアノ等)で子どもたちを動かしたい。

⑥ ○子どもの日々の成長を感じられ癒しをもらえること △どの年齢の担任になっても文句は言えないこと

(3) 大学時代にもっと学んでおいたらよかったと思うこと(記述式)

① 特別支援を要する子について学んでいたらよかったかなと思う。今の担当がということとは関係なく、どの学校、どの学級にも支援を必要とする子は在籍していると思う。

② 学級経営 各教科の教材や指導方法 授業等の

実践的なこと

③生徒指導全般

④小学校教諭や幼稚園教諭、保育士に捉われず、子どもに関わる仕事には他にどのような職業があるのか知る機会があればよかったです。

(4)取り組んだ小学校プレ実習の種類や期間・回数等(選択式) <注3>

(ア)単発：2年生

(イ)指定する小学校に週1回程度：2年生10月～4年生6月 行事：運動会

(ウ)指定する小学校に週1回程度：2年生1月～3月 イベント：2年生複数回

(エ)指定する小学校に週1回程度：在学中通して イベント：5回程度

(オ)指定する小学校に週1回程度：4年生7月～9月(実習開始まで)

(カ)指定する小学校に週1回程度：1年生5月～2年生5月 3年生9月～4年生5月

(キ)指定する小学校に週1回程度：3年生1月～4年生12月

(ク)指定する小学校に週1回程度：1年生4月～7月 行事：運動会

(ケ)指定する小学校に週1回程度：2年生?月～4年生9月

(コ)指定する小学校に週1回程度：3年生9月～4年生6月 イベント：1回

(サ)指定する小学校に週1回程度：2年生4月～4年生7月 行事：運動会 イベント：10回

(シ)指定する小学校に週1回程度：3年生～4年生

(ス)指定する小学校に週1回程度：4年生6月～4年生2月

(セ)指定する小学校に週1回程度：2年生～4年生 行事：運動会 イベント：30回位

(ソ)指定する小学校に週1回程度：1年生10月～4年生6月

(5)小学校プレ実習の取り組みに対する自己評価(選択式)

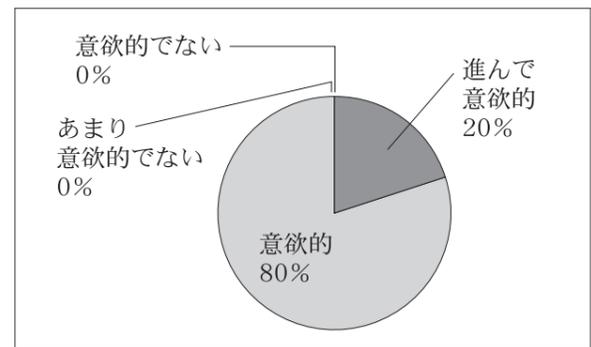


図1 プレ実習の取り組みへの自己評価

(6)小学校プレ実習を体験して自分に該当することに○印をつけてください(複数選択式)

<表3> プレ実習で学んだこと

	①教育実習に委嘱せず向かう	②子どもとのコミュニケーション	③教職員とのコミュニケーション	④報告連絡調整・責任感	⑤学校や子どもの様子の理解	⑥実践力指導力学級経営学	⑦学びの継続や記録	⑧小学校教師になりたい
ア		○						
イ	○	○	○		○			○
ウ	○	○	○		○			○
エ	○					○		○
オ	○	○			○			
カ				○	○	○		
キ		○	○		○			
ク	○	○	○		○	○		
ケ	○	○	○	○				
コ	○	○	○	○	○	○	○	○
サ	○	○	○		○	○	○	○
シ	○	○	○		○	○		
ス		○	○	○	○	○		
セ	○	○	○	○	○	○	○	
ソ		○				○		○
%	6 7	8 7	6 7	3 3	7 3	6 0	2 0	4 0

(7)その他(自由記述式)

(ア)保育で学んだことは、子どもたちと関わる上で私のベースになっているので、後悔はしていませんが、私のようにいつまでも迷わずに、小学校なら小学校と決めて4年間充実させた方がよいと思う。プレ実習は忙しくて単発で行くことが多かったが、あまり意味がない。後輩たちにはぜひ、継続して行ってほしい!初めは「学ぼう!」など思わず、子どもと仲良くなれたら○だと思う。

(イ)当初は小学校の免許さえ取得できれば良いと考えておりましたが、今、感じることは、幼保小、3つとも取得して良かったということです。対象となる年齢や管轄は違うが、やはり小学校に上がる前の発達・発育の知識があると無いとでは、その後の指導の内容の濃さも大きく変わってくると思います。小学校教師としては強みになり、非常勤の立場ながら保育園との連携会議や低学年の指導の場で重宝されています。正直、資格を持っているだけで知識には全く自信がありません。出来ることならもう一度受講し直したいです。社会に出てから大学の講義の大切さを感じさせられています。(一部抜粋)

(ウ)プレ実習は、現場の雰囲気を学生時代に知ることプラスだと思います。何より定期的に行くことで、子どもたちの成長が見られるのがいい点だと思います。私は感動しました。

(エ)資格取得上しかたのないことだと思いますが、教員を目指すのではなく、免許をとるだけの人と一緒に学ぶのはモチベーションの差を感じた。

(カ)今は担任としてではなくいろいろな学級に入っています。子ども一人ひとりはもちろん、クラス一つ一つの雰囲気が全く違うということを改めて実感する毎日です。悩みはつきませんが、昨年の実習で感じたことや先生方からいただいた言葉を思い出しながら頑張っています。不安でいっぱいだった実習を最後までやり抜いたことはすごく大きな力になりました。

(キ)4月からあつという間に、もう9月中旬になりました。何も分からないまま毎日が過ぎていく中で、少しだけ「やっぱり小学校の先生になりたかったな」と思う時があります。でも、園の子どもたちの笑顔や頑張る姿を目にすると、悩んでいる場合ではないなと思います。子どもたちと一緒に

に毎日成長の日々ですが、笑顔のために頑張らなくてはならないと感じます。

(ク)幼稚園と小学校にプレ実習(ボランティア)という形で行かせてもらった期間が長かったけれど、初めの頃は行くのが嫌だった。けれども、期間をあけて行くより、続けて行き続けることで、自分の気持ちも楽になり楽しく行くことができるようになると思う。

(ス)つい最近子どもたちに「大きなかぶ」の絵本を読んであげました。その時に小学校で教えたことや授業がうまくいかず落ち込んだことや、先生が巡回にきてくれてほっとして泣いてしまったことなど…たくさんの思い出を思い出しました。小学校の免許を取得したことを嬉しく思うと同時に誇りに思っています。これからも子どもたちに「〇〇先生」と呼んでもらえるように元気いっぱい笑顔で頑張ります。

(シ)毎日何とか頑張っています。

(セ)大学時代に学んだことは何一つ無駄なことはありませんでした。本当に貴重な4年間を過ごすことが出来たと思っています。

(ソ)アンケートを後輩に生かしてほしい。3年生たちには今からもう勉強を始めてほしいです。

(8)幼稚園教諭としての喜びや悩み 小学校教諭としての喜びや悩みについて(記述式)

\*特定個人(幼稚園教諭を経験し、現在初任小学校教諭)に対する質問

①幼稚園教諭として

○幼児期の子どもとの関わりにおいては、子どもの動きや姿、"もの"や"人"環境への関わりをみて「～と思っているのかな」とか「なぜ～なのかな」など、保育者が子どもを読み取るおもしろさがありました。私は保育現場で、子どもの動きや遊びをみながら環境構成を考えたり子どもと一緒に活動を展開しているときに喜びでした。

△初めて集団に入る3歳児(年少組)の担当しているときには、子どもとの信頼関係はもちろんのこと保護者との関係を築いていくために力を注いだように思います。送り迎えの際やスクールバスのバス停で保護者の方に声をかけることなど、コミュニケーションをとるように心がけていました。幼稚園の現場では、保護者との関わり(対応・相談・ケア)などが求められ悩むこともありました。

正直子どもとの関わりよりも保護者との関わりにおける難しさはありました。

## ②小学校教諭として

○小学校の児童とは対等に話し、対等に関わることがおもしろいです。私の言動に対する反応や応答など、子どもたちがどのように考えているのか？どのように思っているのかをみるのが楽しみになっています。

△月末に初めての通知表を子どもたちに渡します。今は、評価のことで悩んでいます。難しい…。そして、教科書の内容について『〇月頃までにここまでの範囲を終わらせる』というめやすに常に追いかけているような気持ちになっています。時には、ノルマのように思ってしまうこともあります。

## ③幼稚園と小学校と共通していること

幼児期・児童期のことを、再び子どもと共に味わえるということが、この仕事のおもしろさや素晴らしさでないかと思います。幼稚園教諭をしているときには、決して大人になってからは経験することがないであろう"どろんこ遊び・虫捕り、木登り"などを味わえました。また、小学校4年生の勉強を子どもたちとしていると「なるほど!」「これってこんなにおもしろいことだったのだ。」と改めて気付くことも多いのです。再びこの時代を子どもと一緒に味わえるところが、教育に携わる喜びかなと思います。

(9)再度、幼稚園に携わりたいという希望の理由について(記述式)

小学校を経験した自分が、幼児期の子どもをどのように読み取るようになるのか？ということに興味があります。小学校を経験したからこそできる幼児教育があるのではないかと考えています。

## Ⅲ. アンケート結果から

幼・小・保の3資格を取得した学生の意識は、「特に目的意識はないが就職の広がりや有利性を考えて取得できるものは取得しよう」「進路を絞りきれない」「進路の保育士への学びを深めたい」という意識に大別できる。3つの資格を取得できた主な要因として、共に頑張る友達の存在や親身になり相談や励ましてくれる教員の存在を挙げている。本学の少人数指導のよさであると思われる。

3資格をとり幼稚園や保育園への進路を選んだ学生は、自分の資質能力や適性を判断し、教職課程の授業科目の履修や教育実習等の学びや活動を通して、小学校教育と幼児教育の違いを理解し選択している様子が伺える。調査結果(2)の④・⑤・⑥からは、子どもの成長や子どもとの信頼関係、子どもからの学びの発見を喜び、さらに保育者として成長したいという願いをもち充実して仕事をしている様子が伺える。

幼・小または小に絞って取得した学生は、入学時から小学校教員志望であり特化して学ぼうという意識が強い。教員採用試験を受験し現役合格が叶わなかった学生は、3月末の講師採用決定を待ち小学校関係に就職して、教員採用試験にチャレンジし続けている。学生時代から切磋琢磨してきた仲間や小学校現場で出会った尊敬できる先生方の存在、子どもたちのやり遂げた時の笑顔や生き生きとした姿、小学校の教員になりたいという強い意志が再チャレンジを支えている。

大学時代にもっと学んでおくべきこととして、学級経営、生徒指導全般、各教科の教材や指導方法などの実践指導力、特別支援を要する児童について、保護者への対応の仕方など、実践的な力をもっとつけておくべきだったと自戒している。2012.8.28の中教審答申の「I. 現状と課題 (3) 取り組むべき課題」には、『初任者が実践的指導力やコミュニケーション力、チームで対応する力など教員としての基礎的な力を十分に身につけていないことなどが指摘されている。』と記載されている。本学の1期生自身も同様の力が不足していると自覚している。

本学の教職養成課程の中では、前述したように、実習に行く要件として参加基準時間を設定した現場体験プログラム(プレ実習)を実施している。プレ実習では、\*コミュニケーション能力を育成する(対こども、教師・保育者、保護者) \*組織人としての自覚・責任感を持つ(報告・連絡・相談の徹底) \*実践力・指導力をつける(適性を見極め、意欲を持つ)ことを目的としている。(4)の回答から分かるように、設定された最低基準時間は満足しているが、各自が選択して参加しているため、期間の時期や長さ、活動、学校は異なる。(6)(ア)と(7)(ア)は3資格を取

得した小学校講師の記述である。プレ実習には単発で行くことが多かった学んだことも少なかったと振り返り、継続していくことを進めている。(7)(ウ)や(ク)でも定期的に行くことや期間をあけず続けて行き続けるようにと述べている。

現役合格した1期生は1年後期から卒業までF小学校で、継続してプレ実習の教育支援ボランティアや教育実習を行った。継続して学校現場に入って学ぶことは、基盤となる教職員や子どもたちとの人間関係を築くことができ、実践指導や学校が抱える諸課題への対応まで学ぶことができたと言っている。

プレ実習の目的を具体化した6つの観点で自己評価してもらった結果が<表4>である。②の子どもとのコミュニケーションができるようになった87%、⑤の学校や子どもの様子が分かるようになった73%と高い数値を示している。子どもに関わる仕事を前提に幼稚園・保育所などでもプレ実習や本実習を重ねている学生だからこそ、子どもに積極的に関わり、環境や諸活動への観察・気付きから学ぶことができるようになったと思われる。③の実践力や指導力、学級経営を学ぶ場になったのは60%を示しているが、小学校に勤務している1期生だけでみると33%と低い。小学校教員を目指すことを決めている学生にとっては、学びの不足やなぜ・どうしてなどの疑問や課題を感じながらプレ実習に参加していたのではないと思われる。そして、現在、現場で教壇に立ち指導する場になり、その困難さに気付き改めて力不足を実感しているのではないと思われる。⑧の小学校の先生になりたいと思った40%は、入学時当初から幼稚園または小学校教員を目指しどちらにしようか悩んでいた学生である。プレ実習は進路を選択するための機会にもなりうる。④の報告や連絡、調整など責任感が育った33%⑦記録し学びの継続や積み重ねを大切にしたのは20%と低い。④は組織的に対応・行動する力であり、個が優先しがちな大学生としては意識の低い部分である。学校現場では学校運営上大切な力である。前述した初任者に不足していると指摘されている「チーム力」はまさに④の力の一つである。日々の教職員の対応や活動を観察させ気付かせていく指導や事例研究が必要であると思われる。⑦はメ

タ認知の上からも大切にしていこうと考える。本学でのプレ実習導入のねらいである「小学校教育実習に萎縮せずに向かう」は①の結果で67%ができたと言っている。同じ学校でプレ実習から教育実習へと学びを進めことができることは、安心して教育実習に臨める点で学生にとって大きな支えと成果につながっている。このことは、各小学校からの教育実習生の評価が高いことから言えるのではないだろうか。また、学校長からは、プレ実習で実習生が早くから実習校に慣れるメリットに加えて、実習生の様子を把握して実習指導担当教諭や配属学年を決めることができる、教職員が学生に刺激を受けて頑張るなどの声が寄せられている。多忙を極める中で、プレ実習や教育実習を受け入れてくださる各学校には感謝すると共に、率直な意見交換や連携をしながら、学校にも学生にも益になる方法を模索していきたい。

## Ⅳ. 今後の課題

本学幼児児童教育学科では2011年度から新カリキュラムが導入され、2年次からコース制による履修となった。児童教育コース[小学校教諭・幼稚園教諭]、幼児保育コース[幼稚園教諭・保育士]、人間理解コース[認定心理士または特に資格を希望しないコース]の3コースである。資料1は「人を育てる人になる」ためのプレ実習から実習へのステップアップ図(案)である。旧カリキュラムとの主な違いは、1年次で幼稚園実習Iが全員必修となり、単位未修得の場合は次の実習を受講できない。小学校教育実習は3年次9月に実施が予定されている。教育実習を終えてから、自分の小学校教師としての適性や資質能力を熟考し、十分な準備をして教員採用試験へ向かうことが可能となる。小学校教員の資質として大切な自主性や主体性を育てるために、プレ実習の参加基本時間の要件は設定されていない。

3年次6月幼稚園実習II(必修)に向かう学生にとっては、直前の小学校教育実習校でのプレ実習から実習へのステップアップは時期的に困難を伴う。プレ実習は継続して行ってこそねらいや目的が達成される。小学校と幼稚園の共通点や違い、適性などに気付くためにも、1年次後期からプレ実習に向かうことが望ましい。コース制になった

とはいえ履修単位の多い教職課程である。義務や強制ではなく1年次後期から継続してプレ実習へ行く意欲や自主性、責任感をいかに引き出すか、また、プレ実習に行く時間をどのように生み出すかが問題である。1年次前期必修の体験型授業「地域社会と子ども」や教育実習指導報告での先輩から後輩へのアドバイス、教師間の連携などを活かしていればと考える。また、授業のスキルだけを学ぶのではなく、子どもと接する機会をもつ程その難しさや怖さに気付くことが、先生たちと接する中で学校現場の抱える厳しさや問題に気付くことや、学ぶ楽しさや喜びを教える先生たちの真摯な姿に気付くことができるように助言していきたい。プレ実習の中で、小学校教師の仕事の重要性や責任の重大さを認識し、本気で小学校の教員になりたいと思ったときにこそ、教職や教科に関する科目の学修や教育実習が、資質能力として学生に身に付いていくのではないかと考えられる。そして、例え現役合格が叶わなかった場合でも、講師として現場での学びを積みながら、教員採用試験にチャレンジし続ける強い意志が生まれるのではないかと考える。

2012.8.28の中教審答申には「教員免許制度改革の方向性」が打ち出されている。『一般免許状

(仮称)は学部4年に加え、1年から2年程度の修士レベルの課程を標準とする。そのカリキュラムの具体例として学校現場での実習をしながら、一定期間ごとに実習での取組を振り返る理論と実践の往還を重視した探究的実践演習』を挙げている。

本学では、プレ実習が「理論と学校現場体験の往還を重視した教職養成課程」となるように、また、4年次に必修化された教職実践演習(資料2・3)にプレ実習での学びが活かされるようにすることが課題ととらえている。

<注1>

プレ実習とは本学独自の現場体験プログラムであり、本実習の事前学習として位置づけられている。実習前に実習する現場等にボランティアとして入り、体験的に理解し慣れることにより、本実習でより多くのことを学びとらせることをねらいとしている。単位認定(成績評価)はしない。

小学校プレ実習では、3年次3月までに60時間相当のプレ実習を行っていることを要件としている。その内容は、学習支援員・教育支援員としての活動、小学校諸行事等への参加、教育委員会等の機関が主催するイベントへの参加等である。

<注2>

<表4> 資格取得目標級と取得期限

実習の種類	必須条件	対象となる資格検定の種類と合格基準						取得期限
		数学検定	漢字検定	日本語検定	実用英語技能検定	ケンブリッジ英検	TOEIC	
小学校教育実習	数・国・英で三つ以上	準2級	準2級	準2級	準2級	KETレベル	400点以上	3年次3月末

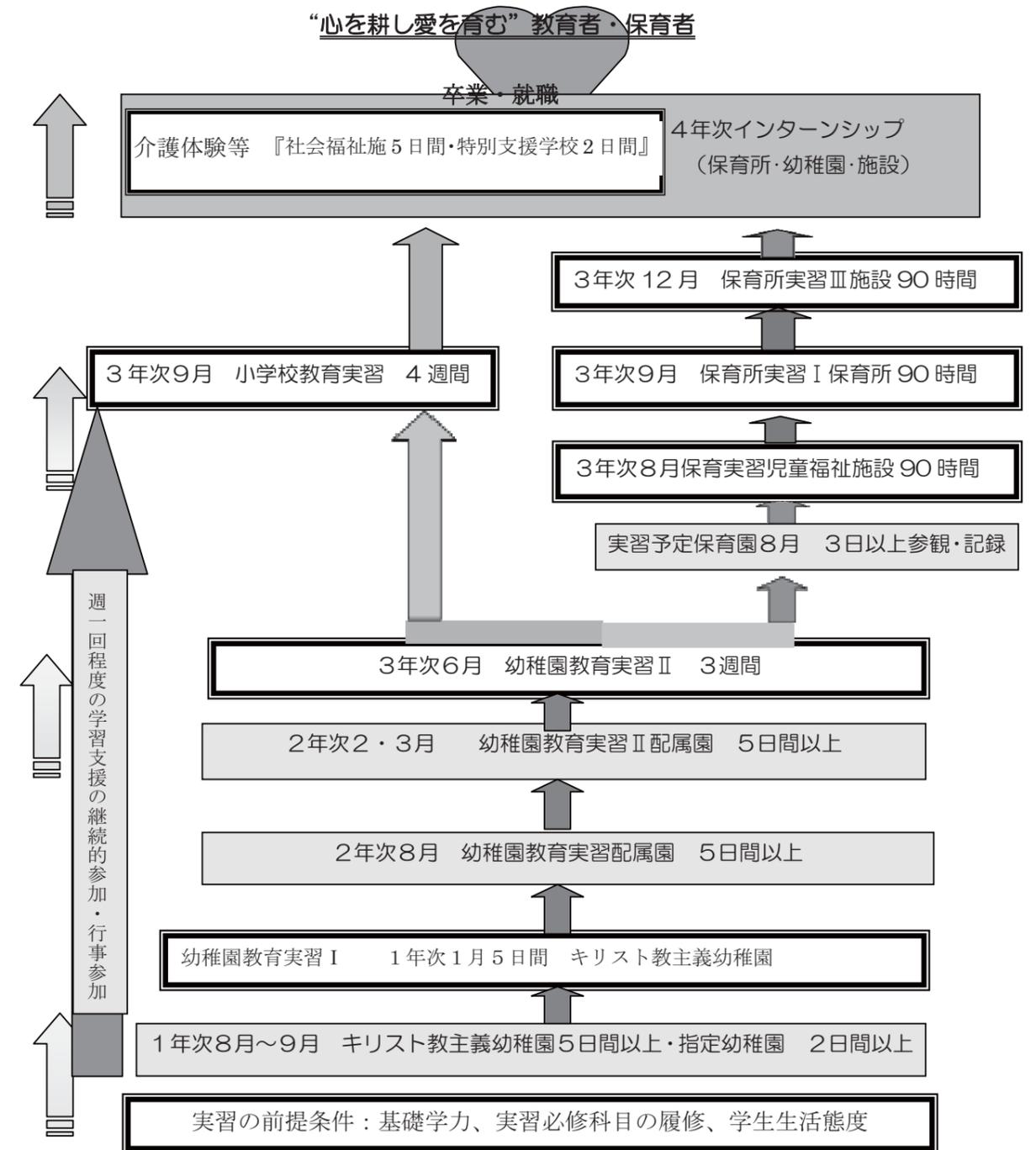
<注3>

3 調査結果の(4)(6)(7)のア、イ、ウ…は同一回答者を表わしている。

<引用文献>

中央教育審議会平成24年8月28日答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」  
資料1-2 P.3, P.9

資料1



「プレ実習」を継続的・段階的に行うことで、実習に対する理解を深め、意欲を高める。

図2 「人を育てる人になる」ためのプレ実習から実習へのステップアップ(案)

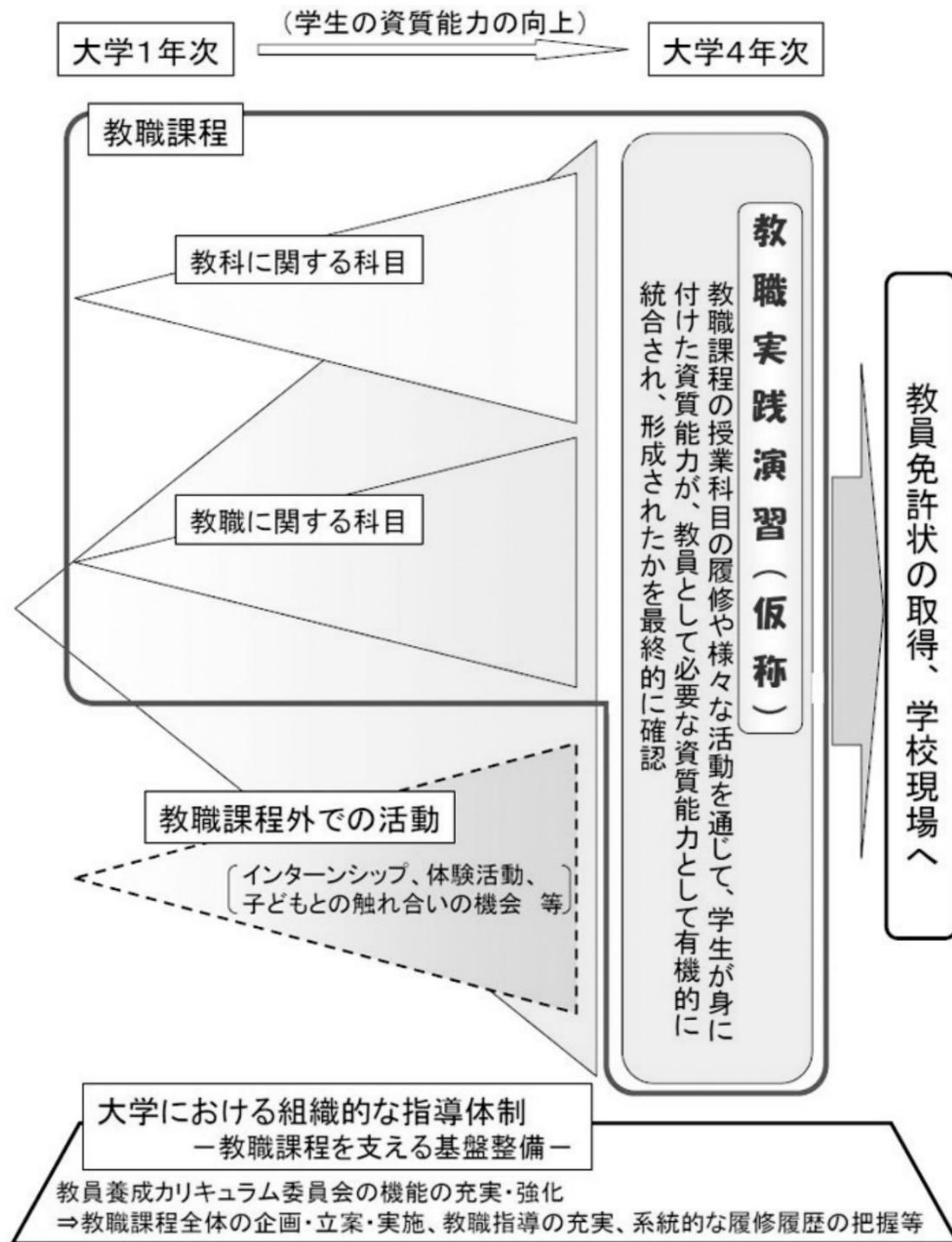


図3 教職実践演習(仮称)のイメージ①

出典：文部科学省ホームページ、2012.10.1確認  
.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910/022/002.htm

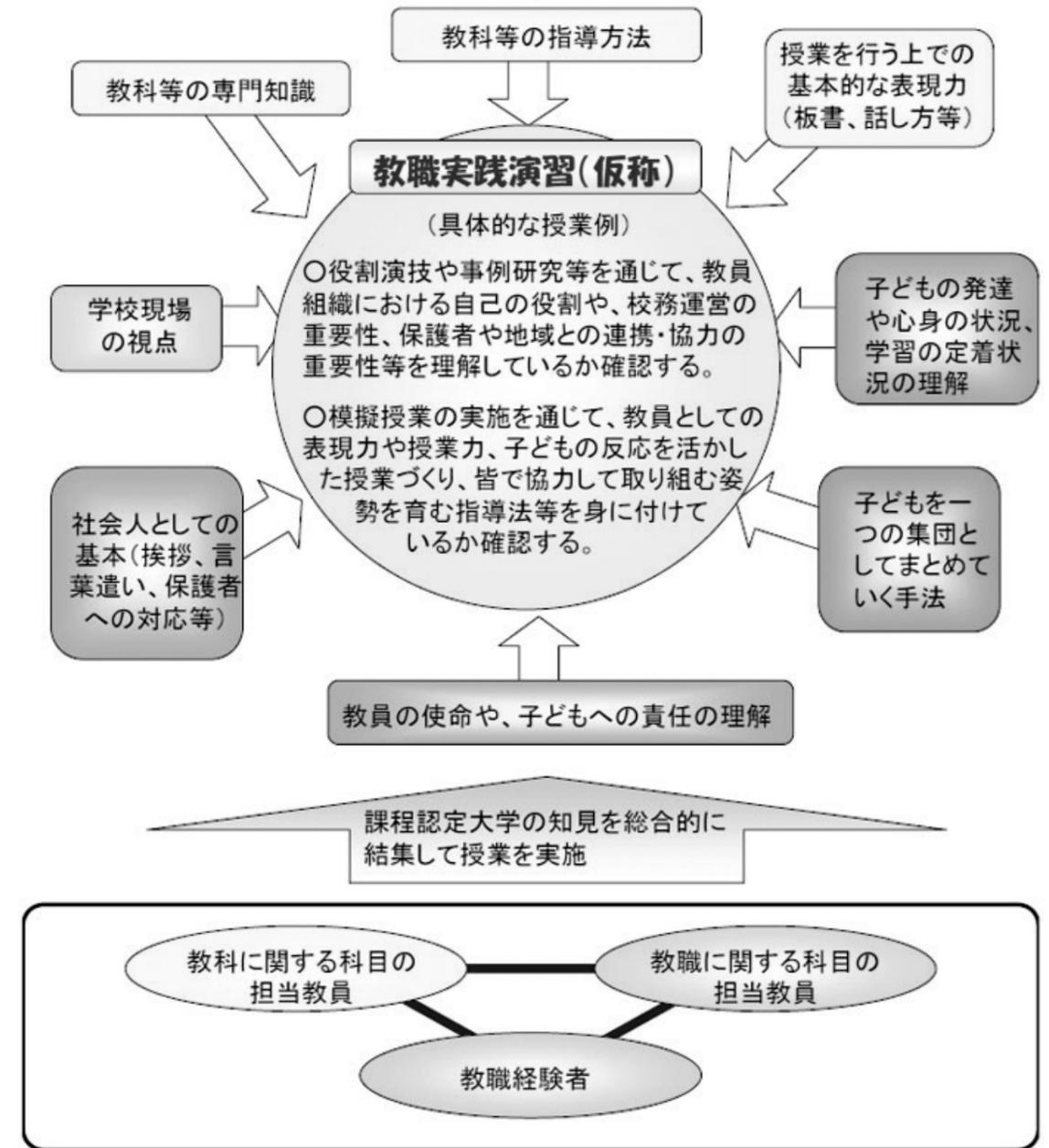


図4 教職実践演習(仮称)のイメージ①

出典：文部科学省ホームページ、2012.10.1確認  
.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910/022/002.htm